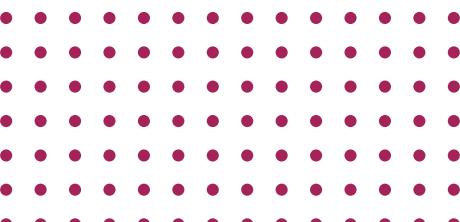


前国を魅力的な大学にするために できる取り組み



共愛学園前橋国際大学 国際社会学部
心理・人間文化コース4年 齋藤舞奈

目次

1, 自己紹介

2, 共愛学園前橋国際大学の概要

3, 観点①について

- ・共愛学園前橋国際大学のあるべき姿
- ・今後取り組むべきと考えること

4, 観点②について

- ・他大学との連携によって、できるようになると良いこと

5, 観点③について

- ・地域との関わりと、その支援の方法
- ・国や行政などとの関わりと、その支援の方法

About Me

齋藤 舞奈(さいとう まいな)
共愛学園前橋国際大学 国際社会学部
心理・人間文化コース 4年



所属

- ・こども食堂るりあるく 代表
- ・児浦ゼミ(地域コミュニティ)
- ・前橋広報ワカモノ記者
- ・前橋こども若者会議

好きなこと

- ・音楽聞くこと
- ・自分のやりたいことを考えている時間

一言

- ・短時間ですが、有意義な意見交換の時間となればうれしいです。よろしくお願ひします。

共愛学園前橋国際大学の概要



「地域の未来は、私がつくる」 「地域と共に生きる大学」

GLOCALな学び

Global(グローバル)×Local(ローカル)

海外研修などで国際的視点を広げるグローバルな学びと、自治体や企業など地域社会と連携し、講義・実践的活動を行うローカルな学びを組み合わせ、学生が世界と地域を結びつけて学修する国際的視野と地域の現状の双方を学び、講義と現場体験を通じて実践的な力を養う



共愛学園前橋国際大学の概要

Glocal Seminar

「本学の5コースに所属する学生がバラバラに混ざり合って、
1年間取り組む授業」

現場体験から地域を知る視点や地域情報を収集・分析する方法を
学ぶ。それらをもとに課題設定を行い、その解決策を考案し
プレゼンをする。科目によっては、地域の方々と協働したり、
自分達でデザインした「プロトタイプ」を実践したりする。

共愛学園前橋国際大学の概要



共愛学園前橋国際大学は地域と強くかかわることのできる授業や
コースの壁をなくして協働で行う授業などが多く、
“ちょっと大変だけど実力の付く大学”

前提とヒアリング対象



そもそも魅力的な大学とは...?

私が思う魅力的な大学

⇒家から通学することが出来る/学びたい分野がある/学費が安い

友人が思う魅力的な大学

⇒キャンパスがきれい/自分のしたいことが出来る/実践が出来る

ヒアリング対象(4人にヒアリングを実施)

○C.Kさん

大学4年・課外活動に積極的に取り組む

○A.Nさん

大学4年・絵本を題材に地域活性化活動に取り組む

○Y.Jさん

前橋市内の起業家・地域創生などに熱心に取り組む

○Y.Kさん

本学の准教授・地域連携教育などを専門している

観点①について

～共愛学園前橋国際大学のあるべき姿～



－ 地域性 × 学生主体 × 社会的価値 －

学生の「やってみたい」を社会的価値へと転換する拠点であるべき

大学の役割

- ・コースごとの特色を活かした学びの設計
- ・地域課題や地域比較を通じた実践的学修
- ・学びを大学の外へ開くハブ機能
- ・学外へ一歩踏み飛び出す機会の創出

学生・地域への価値

- ・学修内容と社会とのつながりが可視化される
- ・地域・大学外での実践が学びとして評価される
- ・学びの選択肢が増える
- ・地元進学することに対して価値を感じるようになる

※ 「学歴・偏差値」ではなく「学びの中身」で選ばれる大学へ

観点①について

～今後取り組むべきと考えること～



3つの重点施策

カリキュラム改革

- ・コース別の強みの明確化する
- ・地域課題解決型と比較研究型プログラムの授業を継続する

アウトプット重視の評価

- ・奨学金と評価制度の見直し
- ・社会実践やコンテストの重視

情報発信の強化

- ・学修成果の見える化を実施する(HPなどに掲載)
- ・高校生が自分の「学ぶ姿」を想像できるような発信

これにより実現する姿

⇒ 国公立・都市部私大と比較して

⇒ 「学びのコストパフォーマンスが高い大学」

観点②について

～他大学との連携によって、できるようになると良いこと～



他大学連携によって可能になる学びと価値

一つの大学では実現できない学びを、現実のものにする

学生同士の広がり

- ・同分野を学ぶ
学生同士の交流
- ・サークルの練習試合など
日常的な関係構築
- ・ゼミ間交流による
学修に対しての刺激

学びの高度化

- ・学部・大学を越えた
学びの共有
- ・他大学の食品・システム
等の共同開発
- ・専門性の異なる学生による
共同研究

観点③について

～地域との関わりと、その支援の方法～



単発イベント型の他大学連携では、学びは蓄積されない

学内で必要なこと

- ・学部やコースを横断型にした学び
- ・「ごちゃまぜ」を前提とした教育設計
- ・学内で協働できない大学同士の連携は破綻する

大学間で必要なこと

- ・ゼミ単位での継続的連携
- ・市内・県内大学との現実的な枠組み
- ・「ゆるやかだが続く」連携モデル、縁側のような繋がり

観点③について

～地域との関わりと、その支援の方法～



国に求められる役割と支援のあり方

学生の挑戦を阻む最大の壁は「資金」と「制度」

〈国に求められる支援〉

- ・学生の地域活動や挑戦に対する金銭的支援
 - ・活動費の一部を補助する仕組み
 - ・大学・地域と連携した支援制度

〈現状の課題〉

- ・都市部学生に偏った支援設計
- ・地方大学生の活動が想定されていない制度

〈今後必要な視点〉

- ・現場に足を運ぶ国の関与
- ・補助金よりも「柔軟に使える仕組み」

観点③について

～国や行政などとの関わりと、その支援の方法～



地域に求められる関与と支援のあり方

大学と地域の連携は「人の姿勢」で決まる

連携が進む 地域の特徴

- ・若者やよそ者を受け入れる風土
- ・教職員や学生が地域と関われる場がある
- ・授業など「ゆるやかな接点」の多さ

連携が進まない 原因

- ・行政職員の内向きな姿勢
- ・大学との対話をする機会の不足
- ・市内大学との連携不全

財政支援+受け入れる姿勢
大学・学生を対等なパートナーとして扱う

ご清聴
ありがとうございました。